

35

2014

MIW

千代田区男女共同参画センター情報誌

特集1 これからの日本の女性の活躍

特集2 ちよだのメンヂカラ
企業人から「まちプロ」へ

通信



表紙は特集にご登場頂いた方々

上段左から右へ 特集2山名芳高さん、特集2浜本敬さん、特集1アキレス美知子さん、中段真中から右へ 特集2大橋サトシさん、特集2山田邦壽さん、下段左から右へ 特集1大日向雅美さん、特集2福田崇さん、特集2鈴木康年さん、特集2武部寛聰さん



ミュウ

「MIW」は千代田区男女共同参画センターの愛称です。MはMan(男性)、IはIntercommunication(情報や意見の交換)、WはWoman(女性)という意味です。男性と女性の間には、いつもI(自分らしさ)と愛(思いやり)をもって、対等な新しいパートナーシップを創造してほしいと願っています。

本の女性の活躍

政策」「成長戦略」を掲げ、経済再生に向けて政策を展開しています。女性の活躍促進に向け、女性役員・管理職の増加、待機児童の解消、しています。この動きを掛け声だけに終わらせないために、女性活躍の



大日向雅美さん

恵泉女学園大学大学院平和学研究科教授、NPO法人あい・ぽーとステーション代表理事、子育てひろば「あい・ぽーと」施設長 専門：発達心理学（親子関係・家族問題・少子化対策・子育て支援）内閣府 男女共同参画推進連携会議議長 社会保障制度改革国民会議委員 子ども・子育て会議委員等

に向けた政府の取組



女性の活躍推進 期待と疑念

昨今、女性の活躍促進が大きな話題となっています。ようやく時代が女性に向けて吹いてきたと期待する一方で、女性の労働力が単に成長戦略として位置づけられることへの危惧は禁じ得ません。とはいえ、明治以降、今日までを振り返ってみても、女性が主体的に自身の生き方を選択できたことは一度もないと言っても過言ではありません。常にその時々、政治や経済的な要請に翻弄され、ある時は家庭に入れと言われ、またある時は安価な労働力として景気の調整弁に使われてきました。そうした中、今回の女性活用は少子高齢化が急速に進む日本社会の活路を見出す鍵として施策の中心に位置付けられていますので、この動きを女性たちが本当の意味で主体的に、しなやかに、したたかに生きる力をつけるチャンスにしなければと思います。

進政策が、企業の取締役や官庁のトップクラスの人事など、華やかなポストにだけ光が当てられているのは、いかがなものでしょうか。これも女性の活躍促進のための一つの戦略だとは思いますが、女性の中に新たな格差を生むことになるのではないかと心配です。地味でも地道な努力を積み重ねている女性たちが、生き生きと働き、ステップアップが保障されるようなボトムアップ式の活躍促進も視野に入れていただきたい。学歴もキャリアもあり、経済的にもゆとりがある女性だけが活躍できる社会は、けっしてすべての女性の幸せにはつながりません。

女性の意識改革も課題

女性の場合、成績優秀で入社してきても、10年20年すると、途中で辞めたり、管理職にならない・なれないのが、これまでの現状でした。仕事と家庭の両立（ワーク・ライフ・バランス）が難しい現実が大きな障壁となっ

(P4へ)

これからの日

政府は今、3本の矢―「大胆な金融政策」「機動的な財政
9月には、第二次安倍内閣に5人の女性閣僚が起用され、
職場復帰・再就職の支援、子育て後の起業支援などを進め
現状について詳しいお2人に伺いました。

女性の活躍促進に

政府は今、社会全体で女性の活躍
を応援するため、「女性役員・管理
職の増加」「待機児童の解消」「職
場復帰・再就職の支援」など、さ
まざまな取り組みを始めています。

女性の活躍促進に
向けた新たな法的枠
組みの構築

企業における女性の
登用の「見える化」と
両立支援のための働
き方見直しの促進

「女性活躍応援プラン
(仮称)」等の実施



待機児童の解消

5年で40万人分の保育
の受け皿を確保する待機
児童解消加速化プラン

職場復帰・
再就職支援

労働者への能力アップ
訓練、子育て後の起業
支援等



一般社会

【参考】『日本再興戦略』改訂2014―未来
「女性が輝く日本」 首相官邸 HP

世界の動きと比べて日本の女性の現状は？

今年6月、パリで開かれたグローバル・サ
ミット・オブ・ウィメン (GSW) に参加し
ました。ヨーロッパでは、すでにクオータ制
(割合を課す制度) によって女性リーダーた
ちの数の確保は当たり前で、今は、いかに育
成し、質を高めるかが注目されています。メ
ンター制度に加え、経営層は有能な女性を
引っ張り上げ、支援するスポンサーシップを
発揮しています。日本では、クオータ制もメ
ンター制もこれからですが、重要なのは、女
性が活躍している国では、制度の導入の可否
にとどまらず、どうサポートしていくかの議
論が活発にされているという事実。日本で
は、まだ議論が始まったばかりです。

アベノミクスの女性の活躍促進について

女性の活躍促進を成長戦略の柱のひとつ
に据えたことは非常によかったと思います。
これまで日本では雇用機会均等法をはじめ、

女性の活躍を実現するために

追い風が吹いている今、私たちは中長期的
な視野で女性が活躍できる土台を作ろうと

男女平等の観点から女性に機会を与えよう
としてきましたが、まだまだ女性の能力が
十分活かされていないのが現状です。
アベノミクスは、女性に限らず、多様な背
景、能力を持った人が活躍し、社会や経済
に貢献することを目指しています。今や日
本の男性中心モデルが通用しないことは明ら
かです。この20年世界は大きく変化しまし
たが、日本は変化への対応が遅れ、経済成
長も頭打ちでした。市場のグローバル化が進
み、違った考えやバックグラウンドの人たち
を理解し、互いの強みを活かしてやっていく
ことが求められています。そこで企業は、ダ
イバーシティ(多様性の尊重)を戦略として
位置づけ、最も身近な多様性として、女性
活躍推進に力を入れ始めました。



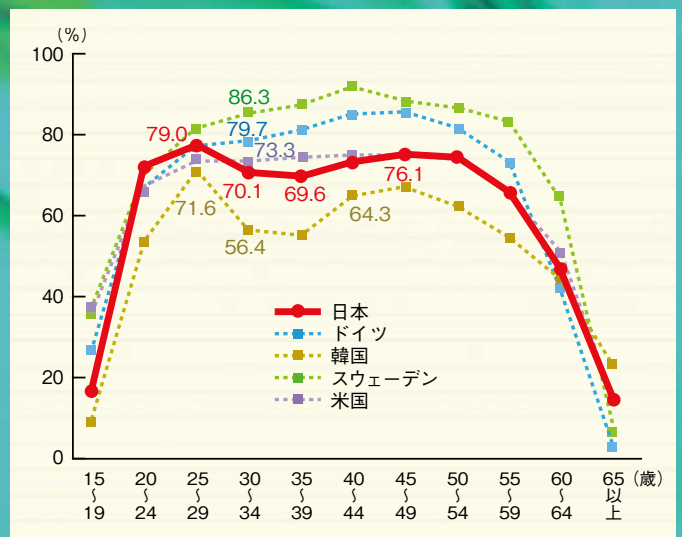
一人ひとりが受けとめたい 女性活躍促進の本当の意味

ているのですが、そうした厳しい現実の中で、折れてしまう女性のメンタリテイの弱さもあるかも知れませんね。ただ、これは両立しながら、生き生きと人生を送る女性のモデルが少ないことも原因と言えるかと思っています。特に今の若い女性に専業主婦帰帰現象が指摘されていますが、この世代の女性たちには働き続けるモデルが少ないのでしよう。彼女たちの母親や祖母の多くは、戦後の高度経済成長期以降、専業主婦として家事育児に専念して生きた世代です。祖母・母を女性の生き方の身近なモデルとすると、両立しようとすることが体が不自然で無理だと思ってしまうこともあるのだと思います。もともと、それ以前の農業・漁業等の第一次産業が主であった時代の女性は、皆、働いていたのですが…。歴史を振り返り、今、そして、これからの時代をいかに生きるべきかという発想と視点を女性自身がしっかりと身につけることも大切な課題だと思います。

自分に誇りを持つ生き方・経済的自立

女性の活躍へ光が当たれば当たるほど、影の部分も強くなります。例えば、シングルマザーやそこで育つ子どもたちの貧困問題、外国籍女性の労働問題もあります。女性の活躍促進の進め方が偏って、女性の間に格差が生まれ、拡大する構造になることは避けるべきです。そのためには、女性の力を安価に使い捨てるような、いわばピンクゲットー化*は改めなければなりません。例えば、女性が大半を占めている介護職、保育職、看護職の待遇は劣悪です。そうした状態を放置して、一部のキャリアの女性だけを持ち上げることを女性の活躍促進と考えるのであれば、それは間違いです。これから少子高齢

M字カーブ - 女性の年齢階級別労働力率の国際比較



日本の女性の年齢階級別労働力率は、韓国同様のいわゆる「M字カーブ」を描いているものの、以前よりもカーブは浅くなっており、M字の底となる年齢階級も上昇しています。また平成25年には女性の非労働人口のうち315万人が就業を希望しており、それが実現すれば労働力率の上昇につながります。

(出典：内閣府「ひとりひとりが幸せな社会のために」26年版データ)

*ピンクゲットー化：特定の、低賃金の仕事に、多くの女性が就かざるを得ないことを意味します。

社会でますます大切な働きをする女性たちです。本当に女性の力を活用するというのであれば、保育士や看護師、介護士等の待遇改善にまず着手すべきですね。

最後に、今の動きを真に女性の力とするためには、まず女性は自分に誇りを持つことがとても大切です。経済的自立はそのための必須要件の一つではないかと思っています。経済力は自身の魂の尊厳を守るために、そして、パートナーや子どもなど、大切な人を愛し、守るために必要な道具だからです。大人の条件は「愛すること、働くこと」だという精神分析学者フロイトの言葉を、私は大切にしたいと考えています。

一つではない女性活躍の仕方

ある党の女性議員が全国を回って、農業、

水産業をはじめとして、各地域でさまざまな形で働いている女性たちを対象に聞き取り調査をして、女性の活躍促進はいかにあるべきかという提言をまとめています。年齢・職業・住む地域を超えてあらゆる分野の女性の活躍を促進し、生涯にわたって人々の暮らしをサポートすることの大切さが、報告書から伝わってきます。

女性の活躍の仕方は一つではありません。また単に女性だけが活躍する社会でもないと思います。男性も人間らしく暮らし、働ける社会を創るという視野の広がりが必要です。老若男女が、人生に遭遇する喜びも悲しみも、リスクも分かち合える社会を築いていくという視点からの女性の活躍促進であって欲しいと、心から願っています。



追い風の今、実質的な女性活躍の土台づくりを現場から

しています。活躍促進を応援する行政・団体は、具体的に現場感のある施策を作って、実現していく必要があります。企業も行政も、責任は自分たちにある、計画を実行していくのは私たちだとの自覚を持って欲しいと思いますね。

具体的な取組みについて

たとえば、私も呼びかけ人の一人ですが、ジャパン・ダイバーシティ・ネットワーク（JDN）*が4月に立ちあげました。全国で女性の活躍促進を通じてダイバーシティの実現に取り組む様々な団体、企業、民間、自治体等が参加しています。女性活躍といっても官・企業・民間団体がばらばらに動いていると点と線が面にならない。それを連携させるためのプラットフォームがJDNです。情報を交換し、組織の枠を超えて連携し、政策提言するまでを視野に入れています。これは今までなかった動きです。

また、政府は202030*を出しています。私は、数値目標をだして初めてアクションが起きると思っています。政府は「見える化」プロジェクト（行政や企業などで指導的立場の女性の割合の公表）を進め、企業も役職に女性の割合を増やすと明言し始め、動き出しました。

現場で働く女性たちが促進の動きを自分たちの事だとは思えない現状

日本の企業の女性管理職の割合は11%、一部上場だと49%、部長クラスは5%、執行役員は1%、取締役は社外も混ざると2%ぐらいです。数が圧倒的に少ないのでほとんどの女性は自分がそこまでいけると思えません。また、入社当時は優秀な女性が多いので

ですが、10年たつと、目立たなくなってしまう。男性はライフイベントがキャリアに影響しにくい環境がありますが、女性は、20〜30代に結婚、出産などのライフイベントがあり、仕事との関わりについて先取りして不安になります。仕事に行詰まりを感じ、自分の強みを発揮できないと、キャリアをあきらめてしまう人も多いようです。

女性があきらめずに仕事を続け、やりがいを感じるためには、キャリアの初期に、ごたえのある経験をさせてほしいのです。大変だけど苦心して結果をだし、達成感や成長実感を感じると、仕事のおもしろさがあります。ライフイベントがあっても、辞めるのではなく、どうしたらキャリアを続けることができるかを考えるようになります。また、男女の違いだけでなく、個人のモチベーションを理解することも重要です。

女性を育てる側も変わらないと…

そこで鍵になるのは、中堅層の在り方でしょう。仕事もライフも活き活きやっている、ロールモデルになる先輩や上司がどれだけいるでしょうか。中堅層が疲れていたり、不満を抱えている職場では、若手は定着しにく



6/5〜7まで、グローバル・サミット・オブ・ウィメンがパリで開催され、82か国から1240名が参加。パリ初の女性市長や36歳のフランスの女性権利省大臣など、女性政治家達のスピーチ、大手企業的女性CEO達や女性起業家達による女性の活躍・ワークライフバランスなどのトークセッションなど、活気ある会議でした。

いものです。特に女性は「私にはムリ」と感じ、ライフイベントをきっかけに離れていくでしょう。

中堅層も、仕事に対してマンネリや行き詰まりを感じることもあります。そんな時は、自分の肩書が通用しないところに出ていきましよう。外部のコンファレンス、研修、異業種交流など、組織の外には様々な学びの機会があります。異なる考えの人たちと交流し、自分を客観的にみでみる。ひとりの人間としてどう組織や社会に貢献しているのか？どのように仕事もライフも楽しむことができるのか？見つめ直したとき、気づくことがあるはずです。

身近な中堅層が魅力的であれば、若手は自分もそうなりたいと思います。そしてキャリアビジョンを描いて、より高いレベルの仕事にもチャレンジしていくようになります。そのチャレンジを支えるのは、上司の大切な役割であり、やりがいではないでしょうか。

* 女性活躍推進に取り組む 公益法人 / 業界団体 / NPO / NGO / 経済団体 / 教育機関 / 地方団体 等、各種団体が連携して活動する民間主催のプラットフォームを設立。様々な団体が連携することで活動を加速させ、社会の変革を促し女性が輝く社会の実現に取り組み、ダイバーシティの重要性を普及する。

** 2020年までにあらゆる分野で指導的地位に女性が占める割合が少なくとも30%になることを目指す



ちよだの メンギカラ

長年企業人・職業人として活躍されてきた男性の力を地域に活かす活動が始まっています。現在、千代田区では、「子育て・まちづくり支援プロデューサー」の皆さんが障害児放課後等支援事業「フレンズビレッジ千代田」などで、活躍されています。それぞれの方々の新しい生き方と活動をご紹介します。

企業人から 「まちプロ」へ

団塊世代男性の新たな生き方

◆「まちプロ（子育て・まちづくり支援プロデューサー）」として、地域の子どもたちの支援をしてもらいますが、関わったきっかけは？

福田 会社を退職して1〜2年、社会との関わりで何かやりたいなど思っていた時に、「まちプロ」養成講座の新聞広告をみて、ピンときたんです。「現役時代の名刺で勝負」ってあったから。趣旨そのものに奥深いものを感じ、今までの自分が活かせるのではないかと感じて参加しました。

武部 リタイアして1〜2年、何もしていない時期があつて、このままだとテレサケ人間*になっちゃうぞ、とみんなもなっていました。社会貢献というほど大げさじゃないけど、外の世界と関わりを持ちたいと、まちプロの講座を受けました。鈴木 働いている時から地域の自治会を長いことやっていました。地域で、子どもとも接する中で、たまたま妻が社会福祉協議会でみつけた「まちプロ」養成講座のチラシを見て参加しました。震災もありましたから、障害者も含めて弱者を支援できればと思ったのです。

浜本 30代から地元の住宅管理組合に関わり地域活動をしていました。でもそこでは発想が大人中心でした。私の住んでいる団地は少子高齢化の見本のように、夏まつりで子どもみこしを担ぐ子どもがいない。この風景普通じゃないな、何とかしなくてはとの問題意識がありました。そんな時、「まちプロ」の養成講座を知って参加。子育てを軸にした活動に興味をひかれたんですね。

武部 私もそうだったけど、まったく子育てしてこなかった懺悔って気持ちもあったかな。子育てって、どんなことをかを改めて考えなくちゃと思いました。

◆皆様「まちプロ」養成講座の1期生。講座や活動に参加していかがでしたか？

鈴木 子どもの発達、保育、子どもへの接し方など、講座そのものが現役時代の世界にはまったくないもので、すべて新鮮でした。学ぶ中で、これまでもっていた子ども観がガラリと変わりました。子どもはこうあるべきだと思って、ずっと接してきたけど、それは、一方通行で、子どもと対話していることにならない。そこ

*1日何もしないでテレビを見て酒ばかり飲む



フレンズビレッジ千代田の夏まつりの様子



福田崇（ふくだたかし）さん

子育て・まちづくり支援プロ
デューサー事業推進室 室長
現役時代は損保の営業と社員研
修で社員教育をしてきた。息子
3人。「たくさん笑顔を見たい
です」



武部寛聡（たけべひろあき）さん

子育て・まちづくり支援プロ
デューサー事業推進室 主任
現役時代は、商業施設や博物館
などのディスプレイに関わる仕
事で、全国を駆け回っていた。
息子2人。「活動を通して生き
ている事を実感したいです」



鈴木康年（すずきやすとし）さん

教育関係の出版社に勤務。営業・
人事・物販などを担当。1年の
3分の1は家にいなかった。子
ども3人。「どんな事でも喜ん
で挑戦していきます」



浜本敬（はまもとたかし）さん

現役時代はメーカー勤務。人材
育成を担当していた。子ども2
人。「共に遊んで学ぶ」ことを
大切にしています」



座談会の様子：南青山の子育てひろば「あい・ぽーと」にて

に気付かされました。

たとえば、子どもが漫画を
読んでいたら、「勉強しなさい、
しない」とい学校に行けない
よ」と言ってしまう。講座を
受けてからは、そうした言い
方でなくて問いかげができる
ようになったんです。「ゲーム
いつまでやるのかな？ お風
呂も勉強もあるけど終わるの
はいつなんだろうね」。そうす
ると、子どもは「あと30分」
とか答える。すると、子ども
は自分が言ったことだから必
ず守る。問いかけることで子
どもの返答ががらりと変わる
ことを経験しました。

◆ご自身の子どもの方、生き
方が変わったところを教えてください。

福田 親子関係というか母親が
すごく大変なんだとわかって
きて、今ではいつでも支援で
きるような姿勢になったと思

います。たとえば、駅の階段

でベビーカーをもっているお
母さんがいたら、「お手伝いし
ましょうか」とすつと言える
ようになりましたね。以前は
絶対にやらなかった私が、で
す。それが一番変わったところ
でしょうか。なぜって、現
役時代はお母さんたちがどれ
ほど大変かを知らなかったし、
自分がやるべきことは他にあ
る、これは私がやることじゃ
ない、私がやることは仕事だ、
と思っていたんじゃないかと
思います、正直なところ。

武部 私はおむつ替えもしたこ
とがありませんでした。私た
ち夫婦は九州出身で、家では
子どものことは女任せという
風潮が強く、今になって、妻
にどれだけ大変だったかと言
われるんですが、まったく記
憶にない。妻のSOSをキャッ
チできていなかった、子育て
を現実的なこととしてとらえ

ていなかったんですね。

鈴木 私は自治会活動にも関
わっています、まちプロの
それとはまったく違います。
自治会活動はみんな現役の姿
のまんまで参加するんですね。
それだと、子どもや女性に對
する目線が欠如してしまう。
参加して人と顔見知りになる
けど、これだけ自分はやって
いるという、上からの目線な
んです。子どもや女性から、
障害を持った人たちまでがい
て、地域なんだという視点は持
てていない。最終的には隣近
所でいろんな人たちが助け合
えることが大事だと思います。

◆現役時代やこの活動に対する
家族の反応は？

浜本 現役の時、メーカーで
人材育成の仕事をしていまし
た。その頃は、自分もだったの
でしょうが、通勤途中のサラ
リーマンって暗い顔していて、



フランクフルトを焼いています



フレンズビレッジ千代田の夏まつりで子どもたちと一緒に牛乳パックで紙トンボを作りました



ちよだの メンゾカラ

それが非常に気になっていた。これからは、自分はもちろん、接する人たちの笑顔も増やす生き方をしたいと思ったんですね。今、子どもたちと接していて、自分から心を開いて笑顔を増していくしかないと思いますね。

自分が伝えるだけで終わるのではなく、相手に「伝わる」ことを目的にしたら、自分から心を開いて関係をもつようになる。職場でも地域でもそれが大事なんだと思いました。まちプロではお子さんが寄ってきてくれるかどうかで、自分にそれができているかどうかかわかってしまいましたが、体験を積んでいくなかで、自分が変わってきたのを実感しています。

福田 現役時代は、会社で営業と人材育成の仕事をしていました。最近になって息子から「おやじが会社で営業やってたなんて知らなかった」と言われました。いかにコミュニケーションがとれていなかったのかですね。妻とは、仲はよかったのですが、それぞれ働いていて、それぞれの場でやっているって感じでした。今は、私がまちプロ、妻も子育て関係のNPOに関わって

いて、毎日、子どものことでいろいろと話し、同じ方向やっているって感じですよ。

武部 わが家も、息子は父親がどこに勤めているか何をしていかに関心があった。私が仕事中心で帰宅が遅かったので話す機会も少なかったですね。妻は今、まちプロの活動を見て、「自分の子どもの時は何もしなかったのにねえ」と言っています。

鈴木 私は出版社に勤務していた、かつては1年の3分の1は出張で家にいない生活でした。妻が一人でやってくれたと感謝しています。今、妻は老人会に関わっていて、2人子どもと老人の話をよくしますね。

◆同世代の男性たちへのメッセージをお願いします。

鈴木 男たちが生活のなかでできることは2、3割じゃないかな。後の7、8割は女性と子どもで動いています。そこに目を向けて、男たちが一度自分の目線を下げて接する努力をしたら楽しいよねって言いやすいですね。まちプロで障害を持つ子どもたちと接していると、ハンディキャップがあってもそれぞれに得意な分野を

持っている。こうした子どもたちが楽しく生きられる社会にしていかなないと、これから日本は沈没してしまうのではないかと思います。

浜本 自分もだったけど、勤めている時は、男性たちは建前で生きているんです。自分の本音に戻って、自分がやって楽しいことを目指してほしいと言いたいですね。まちプロの現場で、子どもたちに接していると、笑顔になれる。手弁当でもよるこんで出かけるという状態です。そうした生き方も楽しいよと伝えたい。

福田 もし子育て支援などに関わりたいと思っている人がいたら、一歩踏み出すためには、やはり知識と学習が必要かなと思います。現役の時のままで接してしまったら、上から目線で、となるかもしれません。**武部** 私自身は外に出ていくことが苦になりませんが、リタイヤした後、引きこもってしまいう男性が少なくありません。その人たちがどうやってた地域と関われるようになるか？単に「出てきて」と言っても、不得手な人たちもいます。「気軽にできるよ」といったメッセージが伝わればいいなと思っています。



フレンズビレッジ千代田の夏まつりでのもちプロの皆さん 左から、大橋サトシさん、福田崇さん、武部寛聡さん、山田邦壽さん、山名芳高さん



かき氷も作りました



フレンズビレッジ千代田の夏まつりではみんなで盆踊りもしました



放課後、西神田児童センターでお子さんと一緒に

子育て・まちづくり支援プロデューサーとは

2013年春、退職前後のシニア男性の職業経験やパワーを地域に活かしてもらうことを目的に、第1期「子育て・まちづくり支援プロデューサー（まちプロ）養成講座」が開かれました。主催したのは、NPO法人あい・ぽーとステーション（代表理事：大日向雅美さん）。住友生命保険相互会社の「未来を強くする子育てプロジェクト」の助成を得て、実施されました。

養成講座の副題は、「ベテラン企業人が現役時代の名刺で勝負！」。対象は、「定年後に地域デビューを希望する男性」でした。90分20コマの講座と約10時間の実習・現場体験を含む5か月にわたる講座に、50人を超える応募者がありました。また、講座に先立ち、キックオフプログラムとして、六本木ハリウッドホールでシンポジウムも開催され、300人を超える方々が参加。千代田区からも当時の次世代育成担当部長が登壇し、このシンポジウムも本プロジェクトの重要な要素となったそうです。

講座の内容は、子どもの心理や発達、子どもへの接し方、子

育てに関する施策や地域の資源など。さらに、まちづくりに関するコミュニティ・デザインについては、各自の経験を活かして意見を出し合い、それを行政や関係機関とどのようにつなげていくかなどを話し合うワークショップも実施しました。講師は、子育てや子どもの心理の専門家だけでなく、企業でダイバーシティ（多様な働き方）やワーク・ライフ・バランスに取り組む多彩な方々でした。

講座を修了し、まちプロとして認定資格を得ると、“子育てを核としたまちづくり”の現場で活動できます。

今、まちプロの皆さんは、千代田区では、特別支援学校に通う生徒さんの放課後などの学習支援で力を発揮。千代田区以外でも港区、浦安市などでも活動しています。

これまで地域の子育て支援の担い手のほとんどが、子育てや仕事が一段落した女性たちでした。「まちプロ」の男性の皆さんが関わることで、新たな可能性が芽生えると期待されています。

子育て・まちづくり支援プロデューサー養成講座（第3期）

2015年1月下旬開講予定（@子育てひろば「あい・ぽーと」等）

【お問い合わせ】特定非営利活動法人 あい・ぽーとステーション
人材養成事業推進室（担当：古閑、齋藤、高橋）
TEL:03-6657-8539 E-mail:station@ai-port.jp

千代田は？

女性の参画・活躍

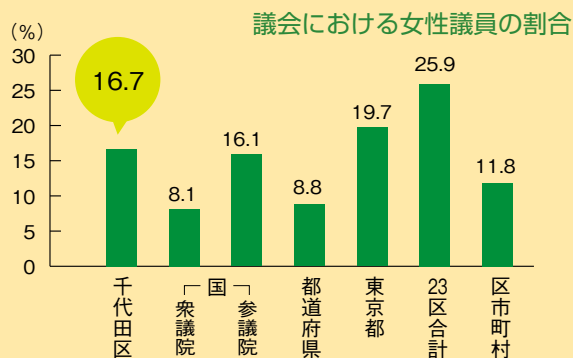


政府は女性の活躍を促進するために、2020年までに、指導的立場の女性の割合を30%に引き上げる目標を掲げています。20年までにあと6年。国や地方自治体、千代田区の現状はどうなっているのでしょうか？
千代田区の目標達成に向けての取組みについてもご紹介します。

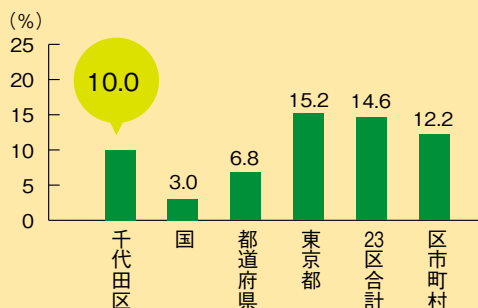


議員

千代田区は議員定数25に対して、現在の議員数は24名。うち女性が4名で、女性の割合は16.7%です。衆議院、都道府県や市町村の議員の女性の割合よりは高いものの、政府の目標の30%の約半分です。3割達成には8名の女性議員が必要です。



公務員管理職に占める女性の割合

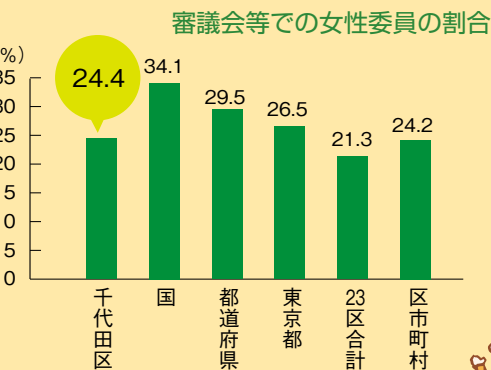


公務員管理職

公務員の管理職（課長相当職以上）を見ると、千代田区は70名中女性が10名で、10.0%です。係長級の割合だけをみると、24.5%。今後、区は係長以上の女性の割合を40%にする目標を掲げ、そのために、係長職昇進選考の有資格者の意識の向上、受験しやすい環境の整備、キャリアアップ意欲の向上などに向けて、女性カレッジ女性職員キャリアアップ講座やワークライフバランス研修等を実施しています。

審議会等

法律、政令または条例によって設置されている審議会等での女性の割合は、国が最も高く3割を超えています。千代田区は24.4%（2013年度は21.3%）。そのなかで、男女平等推進区民会議の女性の割合は60%です。区は、今後、長の私的諮問機関として設置される審議会等も含めた委員会・審議会等での女性の割合を40%（現在は33.2%）にする目標を掲げています。



〈資料〉 * 地方公共団体における男女共同参画社会の形成または女性に関する施策の推進状況 平成25年度 内閣府
 * 地方公共団体の議会の議員及び長の所属党派別人員調査 平成25年12月31日現在 総務省
 * 男女共同参画白書 25年度 内閣府
 * 衆議院、参議院の議員数は2014年9月1日現在
 * 千代田区 平成26年4月1日現在



MIW 登録団体の活動紹介パネル

ここに並んでいるのは、MIWで活動する登録団体の活動紹介パネル。色とりどりの写真や説明、これらのパネルから、皆さんの多彩な活動が見えてきます。



ちよだ女性団体等連絡会



((一社)東京建築士会女性委員会バリアフリー部会



千代田区女性史サークル



ホームヘルパー全国連絡会



ななかまど



NPO 法人エガリテ大手前



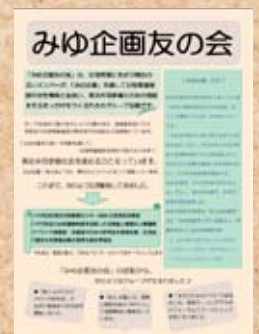
Smile 研究会



グループNIKO



神保町応援隊



みゆ企画 友の会



キララ・ソーイング



((一社)裁判員ネット



((公財)東京基督教女子青年会 (東京YWCA)



九段労務研究会



しんぐるまざあすふぉーらむ千代田



グループ ふだんぎの幸せ



家庭栄養研究会



千代田アマ・ビデオクラブ



日本国際言語通訳ガイド協会



(公社)アムネスティ・インターナショナル日本

情報交流会 MIW 千夜一夜

93夜 今に生きる赤毛のアン

～プリンス・エドワード島からの新しい風～

■ 2014 年 4 月 23 日 (水) 実施

■ MIW 交流サロンで

ゲストに戸川トモ子さんと侑香さん
母娘をお迎えして、村岡花子とアンの世界について伺った。戸川トモ子さんからは豊富な資料とともに、女性史の視点で花子の生き方・作品・社会的活動などをお話頂き、カナダ・プリンスエドワード島でガイドをしている戸川侑香さんからは島の多くの写真を見せて頂き、アンの世界を満喫した。



◀左からゲストの戸川侑香さん、戸川トモ子さん

連続テレビ「花子とアン」の放映開始と重なり、会場は大入り満員状態でした

94夜 ピーターラビットに
出会える「丸の内の庭園」

■ 2014 年 6 月 19 日 (木) 実施

今回は MIW を飛び出し、三菱 UFJ 信託銀行本店ビル 1 階ロビーの「ピーターラビットの庭」で千夜一夜を開催。この庭のプロジェクトの立ち上げから被災地復興のための庭の寄贈、さらに、作者のミス・ボターやナショナルトラスト運動まで、同行の曾根聡子さんと大和佑美子さんに映像を織り交ぜてお話頂いた。



▲ピーターラビットの庭
▶左からゲストの曾根聡子さん、大和佑美子さん



男女共同参画週間 講座

対談 男性はこれからの世界を救えるか
～男社会を変革する生き方～

■ 2014 年 6 月 26 日 (木) 実施

藻谷浩介さん(㈱日本総合研究所主席研究員)と青野慶久さん(サイボウズ㈱代表取締役)をゲストに、男性の生きかたのこれからを率直に語って頂いた。藻谷さんは自分の足で全自治体を訪ねた実感と豊富なデータ分析から、青野さんは育休を取って変わった自分の生き方・働き方から、テンポ良く持論を展開。男性の生き方が変わり始めていることを実感した2時間だった。



左 藻谷浩介さん
右 青野慶久さん
会場は半分以上が男性の参加者でした

MIW 相談室

MIW の相談室では、夫婦関係、男女の生き方・働き方、性に関すること、セクシュアル・ハラスメントや夫婦や親密な関係での暴力などについて相談を受けています。面接でも電話でも相談できます。予約制です。(区内在住、在勤、在学の方対象)

電話での予約 **TEL 03-5211-4316**

◀無料・カウンセラー(女性)が担当します

◆相談日時 ※ (英) = 英語での相談もできます。

水曜日	金曜日
第1・3・5 10:30～15:30	第1・3・5 10:30～15:30 (英)
第2・4 17:00～21:00	第2・4 17:00～21:00 (英)
木曜日	土曜日
第1・3・5 17:00～21:00	第1・3・5 10:30～15:30
第2・4 10:30～15:30	第2・4 10:30～15:30 (英)

在住の方のみ、託児サービス(有料)があります。

MIW インフォメーション

◆ MIW 出前講座 in 上智大学

女子高生・女子学生のための「自分の心とからだを守る講座」

日 時 11 月 8 日 (土) 13:30～16:00
会 場 上智大学四谷キャンパス中央図書館 9 階 L-921
内 容 1 部「好きって気持ちで、ごまかしてない?縛られていない?」
2 部「自分のからだをもっと知ろう!」
講 師 中島幸子さん(DV コンサルタント)、徳永瑞子さん(上智大学教授)
ファシリテーター 三浦まりさん(上智大学教授)
対 象 区内在住・在学の高校生と大学生等(女性)、保護者・指導的な立場の方(男女)

◆情報交流会 MIW 千夜一夜第 96 夜

「スロージョギングはじめの一歩～誰でも、いつでも、どこでも!」

日 時 10 月 31 日 (金) 18:30～20:00
会 場 男女共同参画センター MIW 交流サロン(区役所 10 階)
ゲスト 讃井智子さん(一社 日本スロージョギング協会認定講師)

ともに
申込みは
MIWまで



千代田区男女共同参画センター **MIW (ミュウ)**

所在地 〒102-8688 東京都千代田区九段南 1-2-1 千代田区役所 10 階
交通機関 東京メトロ東西線、半蔵門線、都営地下鉄新宿線「九段下」駅下車、徒歩 5 分
開館時間 月曜日～金曜日 午前 9 時～午後 9 時 土曜日 午前 9 時～午後 5 時
休館日 日曜日、祝日、年末年始
TEL 03-5211-8845 / 相談予約受付 03-5211-4316 FAX 03-5211-8846
E-mail miw@city.chiyoda.tokyo.jp
URL http://www.city.chiyoda.lg.jp (MIW で検索してください)

編集後記 ■ テニス全米オープンで、錦織圭選手が日本中の人々の目をくぎ付にした。相次ぐ怪我に悩まれ、それでも徐々に世界ランクを上げ、今回の準優勝という成長ぶりをみせてくれた。ジェンダー・ギャップ指数が公表され、日本は順位を後退させた。これから、政治・経済分野の弱さを克服し、上位となることを願ってやまない。(S)